

2016年2月29日

2015年度業績予想の修正発表における質疑応答

日時： 2016年2月29日（月）18:00～18:55（電話会議）

説明者： 取締役 執行役員常務 兼 CFO 川島 勇

質問者A

- Q パブリック事業とテレコムキャリア事業の不採算案件の影響額を教えてください。
- A プロジェクトの進捗の遅れなどの状況の中、お客さまとの認識の違いが見えてきたのでこのタイミングで必要な金額の引き当てを見込みました。パブリック事業の不採算案件は50億円強ですが、注力しているマイナンバーの領域ではありません。テレコムキャリア事業でも50億円超で、海外の通信オペレータに対して、ネットワークの構築・保守の一括サービスを提供するプロジェクトです。
- Q 今回、このタイミングで業績を下方修正した理由を教えてください。今回の予想は、保守的ですか、まだ変動の可能性はありますか。
- A 第3四半期の決算発表時点では、セグメントごとに強弱はありましたが、ある程度のリスクを考慮しても、全体として営業利益計画が達成できると考えていました。第4四半期の活動が重要と考えていましたが、1月が終わって活動の進捗を精査した結果、パブリック事業では大型案件の遅れや期待していた案件の消滅・失注が出てきました。テレコムキャリア事業でも、国内通信事業者の設備投資が当社の期待には届かないという状況が見えてきました。受注が3月にずれたものもあり、第3四半期までで足りなかった部分を、第4四半期で挽回するのはかなり難しいと判断しました。
- Q エネルギー事業に対して、来期の考え方を教えてください。
- A 今年度は戦略投資を実行し、売上拡大をはかってきましたが、失注や受注が遅れているものもあり、状況に見合ったやり方で進めていく必要があると考えています。これまでに想定していた時間軸とは違う時間軸で、お金の使い方を検討しないといけないということです。小型蓄電は補助金が無くなった段階で勢いが無くなりました。それもふまえて、原価低減などを進めていく必要があると考えています。

質問者B

Q 小型・大型蓄電システムの事業戦略の再検討とは、事業をやめる検討をするという理解で良いですか。その動きがすぐには取れない場合、費用削減などは可能ですか。

A 費用のかけ方に対するスタンスを少し変えないといけないと考えており、そのような観点で検討していきます。コストミニマムも当然検討します。次期中期経営計画を策定する中で議論していきます。

Q それは次の3年かけて行うのですか。早いタイミングで方向性は見えますか。

A 長い時間をかけるということではありません。早いタイミングで適切な対応を行っていきたくと考えています。

Q パブリック事業の営業利益予想の下方修正額240億円のうち、50億円程度が不採算案件の影響だとすると、残りは売上減少が要因だと思います。差額の200億円弱のうち、翌期ずれ、失注や延期の内訳を教えてください。

A パブリック事業の今回予想の売上減の内訳は、翌期へのずれが5割弱、失注や延期が5割強というイメージです。翌期ずれは来年度の売上に計上されますが、しっかりと見極めて行かないといけません。想定よりもプロジェクトに時間がかかる傾向になっており、案件はいろいろと出てきていますが、時間軸の見極めが必要です。

Q 公共機関の予算構造に変化はありますか。また、特定分野でNECのシェアが低下しているということはありませんか。

A 特定分野のシェア低下という話ではないと思います。いろいろな提案により成果は出ていますが、サイバーセキュリティの大型案件の契約が3月になるなど、後ろ倒しの影響があります。事業構造が大きく変わったとは考えていません。

Q 今回は当期純利益の予想に変更がありませんが、それはなぜですか。

A 営業利益予想が350億円の下方修正となり、この数字から税金を控除すると、当期純利益は250億円前後の減少となります。一方、NECモバイルコミュニケーションズの債権放棄に伴う税金費用の減少が240億円と考えており、概ね相殺されるためです。

Q 特別損益はどのように見えていますか。

A 9ヵ月累計では、株式売却などで既に特別利益が出ています。これに対して何かが起こっても大丈夫なように、年間ではゼロに近いイメージで想定しています。

Q 今回の予想には、法人税率の引き下げの影響を織り込んでいますか。

A 一定の影響を織り込んでいます。

質問者C

Q パブリック事業の翌期ずれ、失注や延期の内容を教えてください。

A 翌期ずれでは、宇宙関係やサイバーセキュリティ関係の大型案件があります。延期では、ウォーターマネジメントのようなビッグデータ関連で海外展開を考えていたものがあります。それ以外では、補正予算の獲得に向けて提案していたものが無くなったものもあります。

Q マイナンバー関連のセキュリティは補正予算案件であり、今期中の売上計上は難しいと思っていましたがどうですか。消防防災は下方修正の要因ですか。

A マイナンバー関連は順調に伸長しており、問題ないと考えています。また、消防防災は今回の変動要因ではなく、想定どおりです。

Q テレコムキャリア事業では、競合が第3四半期決算に下方修正をしましたが、それと同じ状況になったということですか。足もとの状況と今後の見通しについての考え方を教えてください。

A 国内通信事業者の設備投資は、我々が当初想定していたほど期待できなくなっていますが、話し合いは継続している状況です。先々は、足もとの状況を踏まえると厳しいかもしれませんが、通信事業者と話をしながら詰めて行きたいと考えています。

Q 再生可能エネルギーに対する経営の考え方を教えてください。

A いろいろ環境が変わってきていると理解しています。実態として動きが後ろ倒しになっているため、費用のかけ方を見直さないといけないと考えています。

Q 過去にエネルギー領域で買収をしましたが、減損リスクはありますか。

A 今後の事業計画を考えて、どう評価するか、これから検討に入っていきます。

特別損益はゼロで見ているので、現段階で減損ということではありませんが、何が起こっても大丈夫なように今回の予算に織り込んでいます。

Q 9カ月実績では特別損益がプラスになっていますが、その分の余裕があるということですか。

A そのように考えていただいて結構です。

質問者D

Q テレコムキャリア事業の不採算案件は大きな金額です。内容をもう少し詳しく教えてください。来期にかけてどのように取り組んでいきますか。

A お客さまもあるので具体的には言えませんが、海外の現地主導のビジネスです。プロジェクトの進捗が遅れたため、コストの悪化を見積もり対応しています。今後、しっかりとプロジェクトを遂行していきたいと考えています。

質問者E

Q テレコムキャリア事業では、第3四半期決算時に想定していたリスクに対して、どの領域が悪化したのですか。

A 第3四半期決算での売上高のリスクは300～400億円の水準でしたが、営業利益はその影響が多少あるものの、費用効率化などで期初の想定どおりを目指すと説明しました。具体的には、SDNなど海外を中心とした領域でのリスクでした。

今回、追加された300～400億円は、国内通信事業者の設備投資減によるものです。

国内移動の領域が大きいですが、国内固定の領域もあります。

Q テレコムキャリア事業での海外の不採算案件は複数あったのですか。

A 1つの案件です。

Q システムプラットフォーム事業は、前回予想に対して減収増益となっています。その要因を説明してください。

A 売上高は170億円の減少を見込みますが、大きな要因はビジネスPCです。営業利益はプロジェクトミックスの改善や費用改善などにより増益を見込んでいます。

質問者F

Q 海底ケーブル（海洋システム）やパソリンク（モバイルバックホール）の年間見込みに変更ありますか。パソリンクの損益に大きな影響はありませんか。

A 海底ケーブルは上振れ傾向です。1月時点と比べて、パソリンクは大きな変動はありません。

Q 国内ITサービスの受注について、足もとの状況はどうですか。大きな変動はありますか。

- A ITサービスの受注の傾向に足もとで大きな変動はないと考えています。
- Q 景況感として足もとの円高や新興国の通貨安などが出てきています。企業の設備投資に対するマインドの低下が心配ですが、変化はないですか。
- A 1月を終えて大きな変化はありません。先々は慎重に見る必要があると考えています。
- Q マイナス金利の影響でPBO（退職給付債務）が心配です。他社のニュースもありましたが、PBOへの影響をどのように見れば良いですか。
- A PBOへの影響そのものは、まだそれほど大きくならないと思います。PBOよりも、株価下落による資産運用への影響があると考えています。運用利回りが当初想定の2.5%の水準には届いておらず、年度末までの株価にもよりますが、ネットの純資産ベースでは600億円程度の影響が出る可能性があります。一方、PBOの割引率1.3%は1%を切る水準になるとはと思いますが、PBOの変動が全体の10%を超えない限り前年度末の割引率のレベルが維持されるというルールなので、影響はあまりないと考えています。

以 上